

2019年度 事業報告書

[2019年6月～2020年5月]



特定非営利活動法人
地域の未来・志援センター

2020年 7月27日

目 次

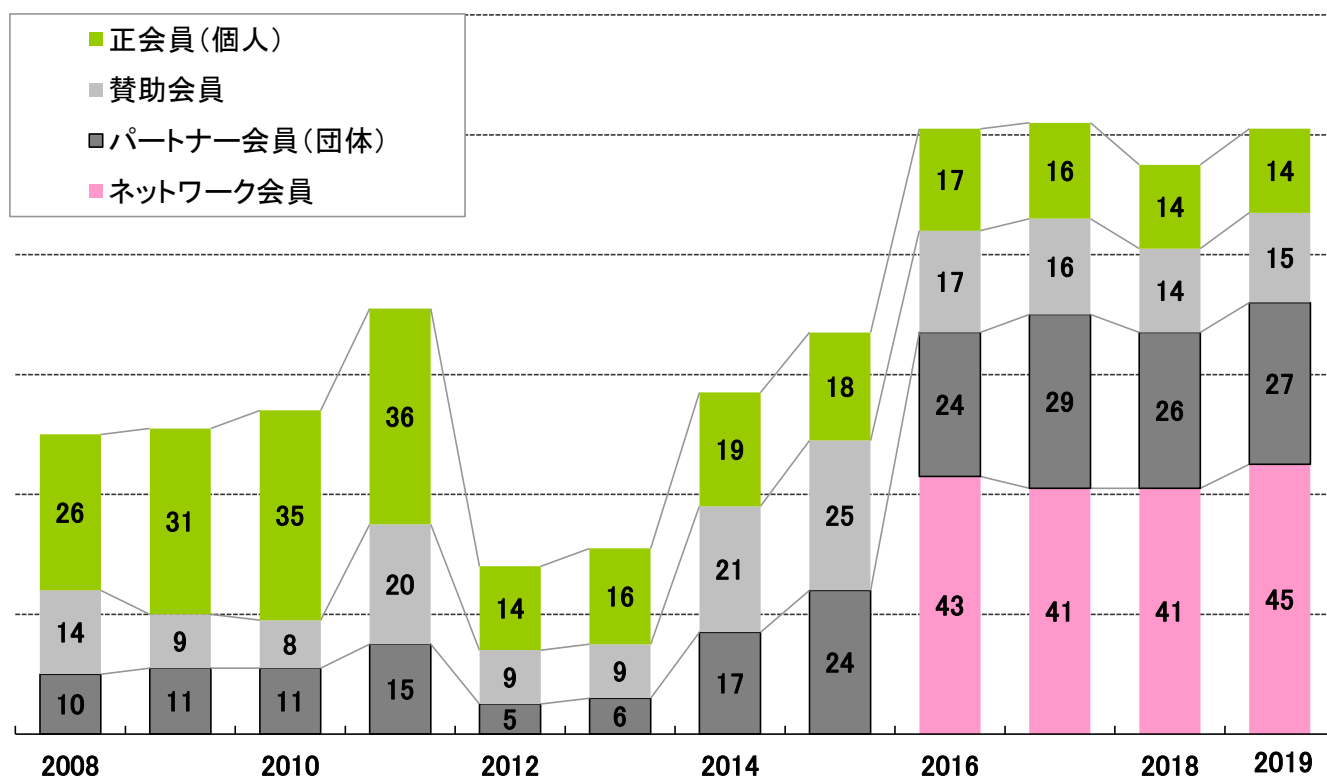
2019年度事業報告

1. 会員数の推移	4
2. 各事業実施報告	6
1. 農山村関連支援事業	
1.1 豊森なりわい塾サポートと『まち森』	7
2. 情報共有促進	
2.1 情報受発信	8
2.2 ネットワーク・中間支援組織との連携	8
3. 情報交流会	
3.1 山川里海 流域思考 情報交流会	9
4. 人材育成	
4.1 SDGs×流域思考 未来創造プログラム	11
かがやけあいち☆サスティナ研究所への参加	12
4.2 NPOセンタースタッフスキルアップ支援	14
5. 流域ネットワーク調査事業	
5.1 流域圏調査	15
6. 団体基盤強化	
6.1 資金調達まるわかりセミナー	16
3. 総会および理事会・運営会議の開催	18
1. 第15回通常総会	18
2. 2019年度理事会	18
3. 2019年度運営会議	19

1. 会員数の推移

会 員 数：101（2020年5月現在）

正 会 員	14名	賛助会員	15名
パートナー会員	27団体	ネットワーク会員	3組織・45団体



◆協力・連携団体 ～会員制度だけではない連携のカタチ～

環境保全・持続可能な社会をめざしてと取り組む3県のネットワーク
 年度後半からは、コロナ禍・アフターコロナの時代に対応する市民社会を目指し
 全国の中間支援的活動者・団体への協働ネットワークを呼びかける

近年、市民活動は少子高齢化、人口減少が進む中で、世代交代やSDGsの浸透に見られるような分野横断的な活動へのシフトが始まっており、市民活動全体が再編期に入っていると考えられる。

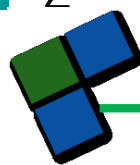
そのような中、団体の組織維持のモチベーションは低下傾向にあり、従来の会員制度が時代に合わなくなっていると認識。2019年度は、ステークホルダーとの関係性を含めた中間支援組織の在り方そのものの見直しを検討してきた。その一つとして、東海市民社会ネットワークへの参加がある。新自由主義的な経済原理中心の様々な施策により、『市民社会スペース縮小』がどんどん進んでいるとの懸念がある。そうした中で非営利活動の意義を問い、市民社会の活性化をいかに進めるかに焦点を当てたシンポジウムを同会にて開催した(P.17参照)。また、年度の後半には、セブーンイレブン記念財団とのパートナーシップで環境中間支援活動を共にしてきたエコネット近畿(NPO法人近畿環境市民活動相互支援センター)、きたネット(北海道市民環境ネットワーク)と共同で、これまでの活動の振り返りを行い、今後の展望について協議を開始した。

そのような折り、コロナ禍が発生した。経済の悪化は確実であり、さらに生活に余裕がなくなる人の増加で、市民活動が一層弱まるとの危惧もある。しかしこの災害により、私たちの社会の歪み—社会的弱者に大きなしわ寄せがいき、将来に希望が持てず、くらしを支える仕事を軽視する不誠実さ—to多くの人たちが疑問を抱くようになった。このような危機的な状況だからこそ、私たちはこれまでの活動で培った持続可能な社会のビジョンを、多くの人にわかるよう伝える工夫を一層重ねることが大切である。コロナ禍を、モノ・カネだけではなく、心が潤う豊かな暮らしを実現する変革のチャンスとしなければ、目指す社会は遠のくばかりである。

市民活動はバージョンアップのときと言える。当団体も、従来にとらわれず、まずは、人材育成・若者支援等で協力しあえる多様な主体との協働を充実させるよう、次ページのような組織との連携を深めている。

人材発掘・育成のしくみづくりにともに取り組むネットワーク

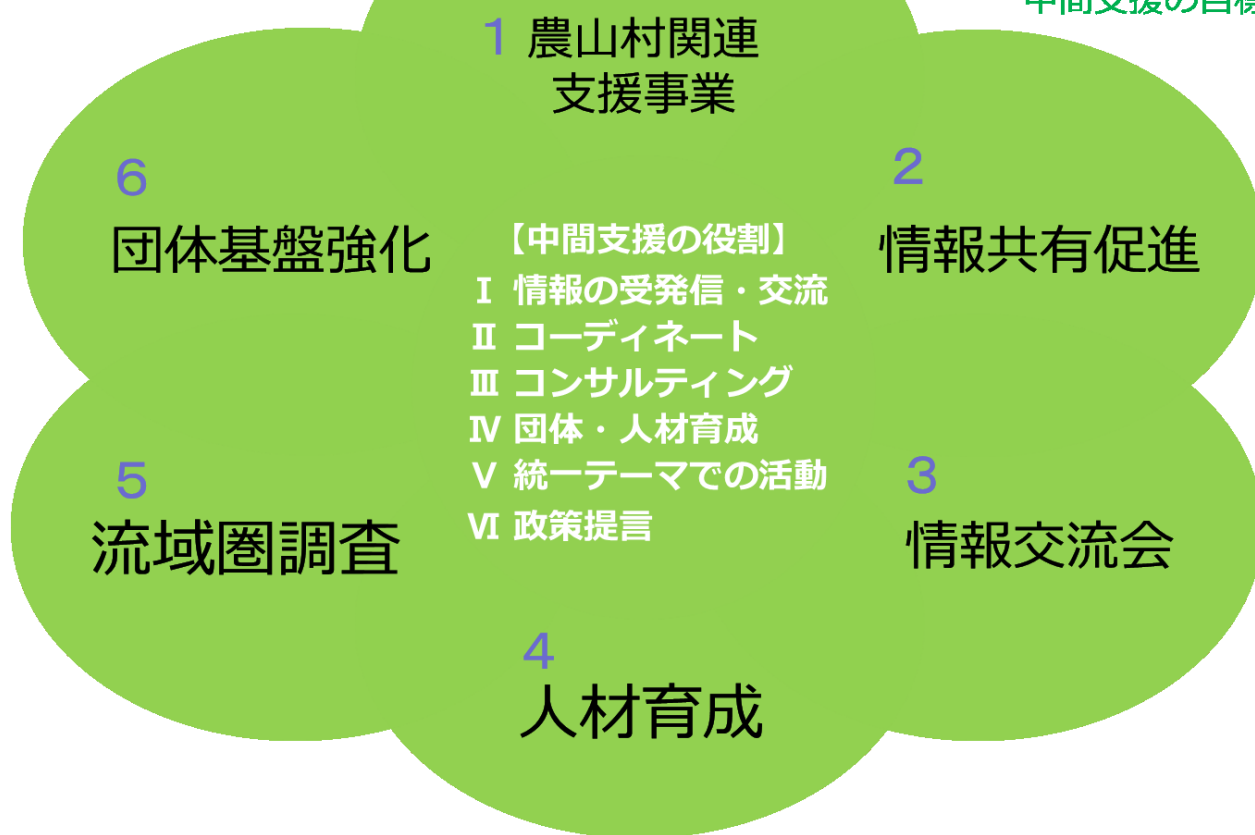
地域	組織名
岐阜	西濃環境NPOネットワーク
愛知	渥美半島環境活動協議会
三重	いなべの里山を守る会
岐阜	NPO法人いびがわミズみずエコステーション
愛知	あかばね塾
愛知	認定NPO法人中部リサイクル運動市民の会
岐阜	NPO法人泉京・垂井
愛知	環境ボランティアサークル亀の子隊
愛知・岐阜・三重	22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会
岐阜	NPO法人森と水辺の技術研究会
愛知	愛知・川の会
三重	NPO法人四日市ウミガメ保存会
愛知・岐阜・三重	東海市民社会ネットワーク
愛知・岐阜・三重	認定NPO法人名古屋NGOセンター
愛知・岐阜・三重	東大手の会
愛知	一般社団法人奏林舎
三重	魚と子どものネットワーク
三重	四日市公害と環境未来館
岐阜	認定NPO法人まちづくりスポット
愛知	藤前干潟クリーン大作戦実行委員会
愛知・岐阜	土岐川・庄内川源流の森委員会
愛知・岐阜	NPO土岐川・庄内川サポートセンター
三重	NPO法人市民社会研究所
三重	チベット友の会
岐阜	NPO法人ぎふNPOセンター
愛知	こどもフォーラム
愛知	不戦へのネットワーク
愛知・岐阜・三重	中部ESD拠点
愛知	アジア保健研修所
三重	NPO法人みえNPOネットワークセンター
愛知・岐阜・三重	一般社団法人 SDGsコミュニティ
愛知・岐阜・三重	環境省 中部環境パートナーシップオフィス
北海道	NPO法人北海道市民環境ネットワーク（きたネット）
近畿地方	NPO法人近畿環境市民活動相互支援センター（エコネット近畿）
全国	NPO法人全国水環境交流会



地域の未来・志援センター 2019年度事業(案)

地域の課題・展望を認識し、環境活動の活性を目指す

中間支援の目標



	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月
山川里海 流域思考 情報交流会									情報 交流会			
SDGs&流域思 考人材育成		スター トアッ プMTG				中間振 り返り						
	指定講座 ミーティング											
助成金セミナー					セミ ナー							
流域圏調査		調査地選定 ミクロ調査										
NPOセンタース タッフ スキルアップ支 援				交流 会				交流 会				
情報発信環境& SDGs関連情報 共有促進	情報発信（メールニュース、HP・SNS更新など）											
	相談対応											
東海市民社会 ネットワーク幹 事会への参加	総会					研究 会			研究 会			

1. 農山村関連支援事業

1.1 豊森なりわい塾サポートと『まち森』

【実施内容】

昨年度（2018年度末）で、当会がトヨタ自動車から10年の委託事業として受けた「豊森なりわい塾」（1期～8期）の実施期間が終了し、その実績と成果から、同事業に対し、豊田市が予算をつけることが決まった。実施主体は、フィールドのある豊田市内（足助）に立ち上がった中間支援組織「おいでんさんそんセンター」である。当団体は2019年度、おいでんさんそんセンターが中心となる新体制への引継ぎと事業サポートを行った。9期の講座の実施回数は5月～2月までの10回。9期塾生は27名で全員が卒塾した。

2020年に向けては、10期生の募集を始めたところで、コロナ問題が発生し、新期に関しては急遽中止とすることになり、2020年はこれまでの卒塾生を対象にしたオンライン講座を5回実施することになった。今期は、このオンライン講座のサポートを行う。

【実施期間】

5月から2月まで毎月1回、第三土日の2日間の講座を実施



【収支】

収入：1,789,583円 トヨタ自動車より受託金 等

支出：4,253,046円 プロジェクトスタッフ人件費、外注費、謝金、旅費交通費、会議費等

2.情報共有促進

2.1 情報発信

【内容】 自団体の広報業務は、従来通り。

中間支援組織間の連携により、3県の催事・研修会等の日程の共有を進める

◆情報発信目標

実施項目	メールニュース の発信	HPの更新	成果評価指 標	メール配信先 数	FBいいね！ 数
目標	年間24回	月2回／ 年間24回	目標	900件	1000
実績	24回 (月2回)	24回	実績	703件	913

【収支】

収入 : 361,758円 セブン-イレブン記念財団運営助成
支出 : 375,309円 人件費、通信費、広報、旅費交通費等

【成果】 東海3県内の中間支援組織と情報共有を行う基盤ができた

下記団体との連絡体制ができ、ネットワーク間の広報協力依頼ができるようになった。

《連携が進んだ組織》みえNPOネットワークセンター、ぎふNPOセンター、名古屋NGOセンター
市民社会研究所、泉京・垂井、中部ESD拠点、森と水辺の技術研究会 他

2.2 ネットワーク・中間支援組織との連携

【内容】

市民の伊勢志摩サミットをきっかけに設立された東海地域のNGO、NPOネットワークである東海市民社会ネットワークに幹事団体として参加しました。

東海三県の環境・SDGsの情報ネットワーク、研究会のコーディネートなどを行いました。

特に11月16日開催のシンポジウム「民主主義の危機は世界共通の課題」では、名古屋NGOセンターの呼びかけにこたえて、泉京・垂井と当団体がともに、世界の事象と地域の課題を結び付けることを狙いとして企画立案を行いました。主眼は、市民社会スペースの縮減を食いとどめること。世界中で経済格差が広がり、市民社会が弱まる中、今後の活動にとってますます重要となるSDGs 16について話し合う機会を設けました。

また山川里海情報交流会に登壇者として東海市民社会ネットワークのメンバーが参加しました。

【G20外相会合に向けてのシンポジウム】

民主主義の危機は世界共通の課題

市民社会スペース縮減の時代から
SDGsゴール16達成に向けて

16 平和と公正を
すべての人に

●日時 2019年11月16日(土) 13:00~17:00(12:30開場)

●場所 なごや人権啓発センター(ソレイユプラザ)研修室
地下鉄伏見駅より徒歩5分 伏見ライオンプラザ12階

●基調講演『多国籍企業における市民社会スペースの確保〜C20の経験から〜』
講師 三輪 敦子 さん
(一財)アジア太平洋・人権情報センター(ヒューライツ大阪)所長

●参加費 学生:500円 一般:1000円

●お問い合わせ 名古屋NGOセンター
〒460-0004 名古屋市中区新栄2-3 YWCAビル7F
TEL&FAX 052-228-8109
E-mail info@nangoc.org
http://nangoc.org

事前申込は名古屋NGOセンターのウェブサイト <http://nangoc.org> 申し込みフォームから

●サイドイベント: 同日の11:30より、同じ会場でデベット映画『恐怖を乗り越えて』(30分)の無料上映を行います。

主催 東海市民社会ネットワーク
特定非営利活動法人 泉京・垂井(せんと・たるい)
特定非営利活動法人 地域の未来・支援センター
特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

3.情報交流会

3.1「山川里海 流域思考 情報交流会 & グリーン連合シンポジウム」

～つながり つむぐ 私たちの環境活動 みんなの未来に向けて～

- 日時：2020年2月8日（土）10：00～17：30
- 会場：垂井町表佐地区まちづくりセンター（岐阜県不破郡垂井町表佐1723-1）
- 参加費：一般1,000円、学生500円
- 主 催 グリーン連合／一般財団法人 セブン-イレブン記念財団
NPO法人泉京・垂井／愛知・川の会／NPO法人地域の未来・志援センター
- 協 力 渥美半島環境活動協議会／魚と子どものネットワーク／西濃環境NPO ネットワーク
東海市民社会ネットワーク／中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
22 世紀奈佐の浜プロジェクト委員会／NPO 法人森と水辺の技術研究会
NPO 法人四日市ウミガメ保存会
- 後 援 愛知県／岐阜県／三重県／垂井町／環境省中部地方環境事務所
NPO法人ぎふNPOセンター／ESD活動支援センター／中部地方ESD活動支援センター
- 参加者数：参加者数 80名（一般 67名、学生 12名、オブザーバー1名）
<事前申し込み74名、当日参加11名、キャンセル5名>
※登壇者15名、ファシリテーター1名、スタッフ13名

◆開催概要

世代間交流とネットワーク構築、またその先にある政策提言を見据えた、東海地域の環境活動に取り組む団体の交流会と、全国で活動している団体が参加するシンポジウムを開催しました。

第1部 SDGs×流域思考未来創造プログラム 活動発表



概要

はじめに、SDGs×流域思考未来創造プログラムのきっかけとなった「22世紀奈佐の浜プロジェクト」の紹介がありました。次にこの一年の活動報告がありました。「22世紀奈佐の浜プロジェクト」長良川エクスカッションや答志島での学生交流会、答志島で漁業体験や地域の方々と触れ合った合宿、分科会登壇者でも発表があった奏林舎での林業インターン、取り組みをプレゼンし見事入賞した「いい川・いい川づくりワークショップ」の報告がありました。

第2部 東海3県の若手実践者による取り組み発表&分科会



概要

第2部は、東海3県の「山」「川」「里」「海」をフィールドに活動されている方が取り組み発表を行いました。その後、それぞれのフィールドに分かれて分科会を行い、話を深めていきました。山の分科会では、主に間伐材の利用やその現状について、里の分科会では地域内の循環型社会についてのお話がありました。この分科会をきっかけに、横のつながりが生まれ、新たな事業のきっかけになっています。



分科会目	登壇者	所属
山分科会	澤 秀俊 さん 唐澤 晋平 さん	建築家／一級建築士 SAWADEE/ 澤秀俊設計環境 主宰 奏林舎 代表
川分科会	新玉 拓也 さん 坂本 貴啓 さん	魚と子どものネットワーク 代表 国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センター専門研究員
里分科会	吉田 勲司さん 小林 あやさん	nekkofarm 代表 いなべフェアトレードタウン
海分科会	下田 菜生さん 松野 弘美さん	NPO法人四日市ウミガメ保存会 代表 Blue Drop

第3部 エコロジカルな社会をつくるには

第3部では、はじめに環境NGO・NPO・市民団体のネットワークであるグリーン連合を代表して中下さんから挨拶がありました。その後、グリーン連合や東海地域で活動されているレジェンドたちの「取り組み」や「思い描く持続可能な社会」のお話をいただきました。6人のプレゼン後は、会場全体を巻き込んだ対話です。会場全体での対話のファシリテーターは、パフォーミングアーツネットワークみえ代表理事の油田晃さんが務めました。取り組み発表のあいだ参加者は付箋紙に疑問や質問を記入します。それを回収分類して参考にしながら対話は進みました。



藤井 絢子さん
(菜の花プロジェクトネットワーク)



全体の様子



ファシリテーターの油田さん

最後に取り組み発表や全体での対話から「今日の気づき」「これから私たちにできること」を5～6人のグループになって話し合いました。



参加者全員で記念撮影

【収支】

収入 : 1,487,501円
支出 : 1,459,182円

セブン-イレブン記念財団運営・事業助成、参加費収入
人件費、通信費、広報、講師謝金、旅費交通費等

4. 人材育成

4.1 SDGs×流域思考 未来創造プログラム

- 期間：2019年4月～2020年3月
- 場所：三重県答志島、東海3県で活動する環境団体のフィールド、地域の未来・志援センター事務所
- 協力団体：22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会／愛知・川の会／NPO 法人森と水辺の技術研究会
魚と子どものネットワーク／西濃環境NPO ネットワーク／渥美半島環境活動協議会／
NPO 法人四日市ウミガメ保存会
- 参加者数：コアメンバー14名（岐阜大学4名、中部大学3名、四日市大学7名）

◆開催概要

学生交流会の企画運営、流域思考を学ぶ合宿、環境団体へのインターンなど通して、東海三県で環境活動や持続可能な地域づくりを主体的に行う人材を育成する大学生を対象としたプログラムです。

また参加した学生たちは、いい川・いい川づくりでのプレゼンや、ミーティングなどを通して講座の運営を経験し主体性を育みました。

■ミーティング



4月のプレミーティングを皮切りに、月1, 2回のペースでミーティングを実施しました。22世紀の奈佐の浜プロジェクト学生部会や答志島、佐久島合宿など指定講座の企画・運営などを話し合いました。

また、神田浩史氏（泉京・垂井）、油田晃氏（パフォーミングアーツみえ）を講師に招き、7月はスタートアップミーティング、11月には中間振り返り会を行いました。SDGs・流域思考を通して地域課題や、それを生み出す構造を考えるワークショップや、演劇的手法を使って、様々なコミュニケーション手法があること、自ら『選択』していくことの疑似体験をしました。

中間振り返りでは、これまでの活動のまとめや、今後の方針などを話し合いました。



SDGs・流域思考WS



コミュニケーションWS



中間振り返りの様子

■講座



学生交流会の様子

22世紀の奈佐の浜プロジェクトの「長良川エクスカージョン」（2019年6月8日）、奈佐の浜清掃活動（10月13日）に参加しました。その午後に実施した「学生交流会」では、50人以上の高校生・大学生が参加、マイクロプラスチック汚染の調査共有やほしい未来について話合うワークショップを実施しました。

8月10日から8月12日には鳥羽市答志島で、12月26日から28日には西尾市佐久島で合宿を実施しました。答志島では漁業体験を通して島の生活や生業を学びました。佐久島では、2020年度実施の「佐久島エクスカージョン」の企画のため情報収集をしました。



答志島合宿の様子



答志島合宿の様子



佐久島合宿の様子

■インターン、いい川・いい川づくりW.S.

一般社団法人奏林舎にて林業インターンを実施、林業体験、植林活動などを行いました。

また、滋賀県で開催された「いい川・いい川づくりWS」に参加し「22世紀の奈佐の浜プロジェクト」のプレゼンを行い、見事入賞いたしました。



林業インターンの様子



いい川・いい川づくりWSの様子

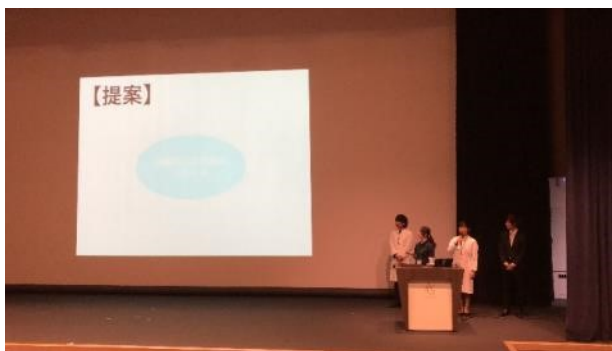
「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」ファシリテーター参加

■期間：2019年6月～12月

■場所：愛知県内、地域の未来・支援センター事務所など

◆開催概要

未来のあいちの担い手となる学生が、グローバルな視点を持って継続的にエコアクションを実施することができるよう、愛知県が立ち上げたプロジェクトへ事務局河合が参加しました。パートナー企業から提示された環境面での取組に関する課題に対し、研究員である学生が現場での調査や企業担当者とのディスカッションを実施する際のチームファシリテーターを担いました。



【収支】

収入：1,608,517円

支出：1,608,517円

セブン-イレブン記念財団運営助成、協賛金、人材育成助成金 他
人件費、通信費、広報、印刷製本費、旅費交通費等

【成果】

参加型の手法にこだわり、単に講座に受動的に参加するのではなく、参加者が企画運営からかかわることで、SDGs×流域思考未来創造プログラムでは本プログラムから派生し、学生たちが組織化を目指す話し合いが行われるなど、参加者の主体性が育まれた。東海地域での環境活動の担い手育成が育成された。

13

4. 人材育成

4.2 東海地区市民活動センタースタッフ交流会

【目的】

持続可能な社会構築を目指し、地域の自治力向上を担うNPOセンタースタッフのスキルアップを支援。

【内容】

孤立しがちなセンタースタッフが、日頃の業務に役立つ情報交換や経験交流を行うための交流会を年2回程度開催。

実施概要	開催日	内容
第7回 名古屋市開催 ゲスト：佐藤仁志氏 (弥富防災・ゼロの会)	9月30日 (月)	会場：ウインクあいち 参加：17名（10センター） 横浜市市民活動センターを視察した佐藤さんから、センターの事業や概要、ヒアリングの内容などを共有。センタースタッフのつながりや相談力アップについて話し合いました。
第8回 一宮市 開催 ゲスト：河合信嘉氏 (一宮市) 近藤裕子氏 (大口町)、和田氏 (まちなっと大口)	2020年 1月11日 (土)	会場：com-café三八屋 参加：25名（16センター） 市民活動センターの立ち上げに関わり、担当をしてきた行政職員だから、市民活動センター設立のいきさつや目的、当時思い描いてきたこと、大切にしてきた思いなどを伺いました。

第7回 凄腕の相談員にならなくても、相談力は上げられる？

～センター同士のつながりや、いろんな活動者や先生とのつながりを

広く深くする努力で、相談力UP！？～



第8回 センターの立ち上げに関わり、その後10年以上担当された行政の職員から聞く、

センターがなぜ作られ、どう変化してきたか！



【収支】

収入：295,899円
支出：314,249円

セブン-イレブン記念財団運営助成、参加費、繰越金
人件費、通信費、講師謝金、旅費交通費、会場賃借料等

5.流域ネットワーク調査事業

5.1 流域圏調査

【目的】

- ①地域循環共生圏構築のための基盤整備
- ②流域圏経済循環の可視化

【内容】

流域経済循環調査及び、その調査結果を発信、地域内で共有する事業を実施しました。調査は揖斐川流域全体の経済循環調査（マクロ調査）と、より小さな地域（岐阜県揖斐川町旧春日村）に焦点をあてその中の事業や個人活動がどのように地域の持続性に貢献しているかを調査（ミクロ調査）を実施しました。

【成果】

マクロ調査についてはリーサスを使用した分析を岐阜協立大学の協力を得て実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響で成果の取りまとめまでではできませんでした。ミクロ調査は調査地の選定、ヒアリング調査を実施しました。当団体は調査内容の地域共有の場づくり等をサポートしました。



ミクロ調査（旧春日村民俗収蔵庫にて）



ミクロ調査（ヒアリングの様子）

【収支】

収入 : 595,798円
支出 : 595,798円

セブン-イレブン記念財団運営助成
人件費、旅費交通費 等



6. 団体基盤強化

6.1 NPOの資金調達まるわかりセミナー in 岡崎

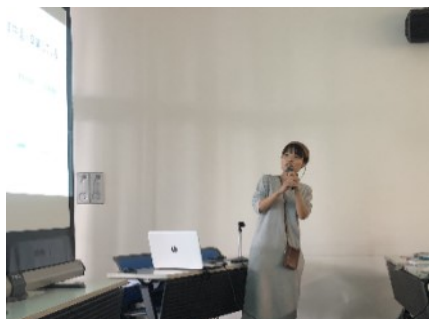
- 日時：2019年10月20日（日）
10：00～16：45
※17：00～17：45 助成団体意見交換会
- 場所：岡崎市図書館交流プラザ 会議室301
（愛知県岡崎市康生通西4丁目71）
- 共催：NPO法人岡崎まち育てセンターりた
岡崎市
- 協力：NPO法人泉京・垂井
西濃環境NPOネットワーク
渥美半島環境活動協議会
- 参加者数：47名（目標数45名）



◆開催概要

日々、地域社会や地球環境等の課題解決のために活動しているNPOをサポートする目的で資金調達に特化したセミナーを開催。一日でクラウドファンディングや遺贈寄付など資金調達の新しい流れや助成金申請のコツを学び、複数の助成団体へ個別質問もできるセミナーを実施しました。

■第1部 A、資金調達の新しいながれ B、初めての助成金申請書の書き方講座（選択制）



「ファンドレイジング」入谷さん



「クラウドファンディングの今」柊さん



「フィールドの遺贈寄付」青木さん

第1部は、A、B2つの講座を用意し、申込者を選択して受講していただきました。

Aの「資金調達の新しい流れ」は、非営利活動の資金調達新潮流についての講座を実施し、32名が参加しました。「ファンドレイジング」（講師：認定NPO法人D×P（ディーピー）理事 入谷佐知さん）「クラウドファンディングの今」（講師：中日新聞・夢チューブ 柊哲史さん）「遺贈寄付ってなに？フィールドの遺贈寄付」（講師：フリーランスファンドレイザー 青木将美さん）の3講座を展開しました。

Bの「助成金申請書書き方講座」（講師：セブン-イレブン記念財団 地域活動支援マネージャー 小野弘人さん）は、初心者が知っておきたい助成金の基礎知識や申請にあたっての心構えなどを学ぶ講座で13名が参加しました。いずれも講師の体験に基づいた貴重な情報・事例満載で、参加者は熱心に耳を傾けていました。



「助成金申請書の書き方講座」小野さん

第2部 助成金制度説明（事例発表・助成制度紹介）

事例発表はセブン・イレブン記念財団からの助成を受けて活動を発展させた「日本の森バイオマスネットワーク」の唐澤さん。記念財団・小野さんとの対談も行い、よかった点、苦労話など生の声を聞くことができました。助成制度紹介では「9つの団体による説明が行われました。各団体の持ち時間が10分と短めでしたが、いずれの団体も的確を絞ったわかりやすい説明で参加者の多くが熱心に耳を傾けていました。



事例発表 唐澤さん×小野さんの対談



公益財団法人河川財団
『河川基金～川づくり団体部門を中心に』



独立行政法人環境再生保全機構
『地球環境基金』



岡崎市市民協働推進課
『市民公益活動事業費補助金』

助成財団名	登壇者	助成制度名
一般財団法人セブン・イレブン記念財団	小野 弘人さん	2020年度環境市民活動助成
コミュニティ・ユース・バンクmomo	鈴木 雄介さん	融資とボランティアスタッフ momoレンジャーによる応援
東海ろうきん	高橋 清道さん	NPO支援活動
公益財団法人河川財団	益田 由美 さん	河川基金～川づくり団体部門を中心に
独立行政法人環境再生保全機構	小林 大 さん	地球環境基金
コスモエネルギーホールディングス株式会社	江崎 礼子 さん	コスモ石油エコカード基金
トヨタ自動車株式会社	兼岩 悦子 さん	トヨタ環境活動助成プログラム
株式会社ラッシュジャパン	種村 香奈美 さん	LUSH JAPANチャリティバンク寄附・助成金
岡崎市市民協働推進課	太田 悠紀子 さん	市民公益活動事業費補助金

第3部 個別質問会

9つの助成団体と講師青木さん＆地域の未来・志援センター理事による運営相談ブースを設けて実施しました。エコネット近畿やきたネットと経験共有していることで、個別質問会へ一人でも多くの参加者を誘導できるようアナウンスを行い、相談することなく帰ってしまう参加者がでないよう配慮しました。また、気後れしている方に声掛けをしてサポートし、多くの方が複数ブースをまわって相談していただくことができました。



助成団体意見交換会

助成財団6団体、主催・共催団体が参加しました。セミナーの振り返りを行い、参加者が多くの学びを持ち帰ることができたこと、助成申請・今後の活動への意欲を高めるセミナーであったことが共有されました。一方、参加者層のミスマッチを若干感じたとの声もありました。共催団体りたさんより、本セミナー前に、助成金申請を考えるにあたっての基礎講座が必要な団体が多かった、との意見が出されました。



【収支】

収入 : 1,260,857円
支出 : 1,229,928円

セブン・イレブン記念財団助成、協賛金 他
人件費、通信費、広報、印刷製本費、旅費交通費等

3. 総会および理事会・運営会議の開催

1. 第15回通常総会

- 【実施日時】 2019年8月3日(土) 14:30～15:35
- 【実施場所】 地域の未来・志援センター 事務所
- 【審議事項】 第1号議案 ①2018年度事業報告および②収支決算について
第2号議案 ①2019年度事業計画および②活動予算について
第3号議案 定款変更について
第4号議案 役員の選任について

2. 2019年度理事会

❖第91回定例理事会

- 【実施日時】 2019年8月3日(土) 16:15～17:00
- 【実施場所】 地域の未来・志援センター 事務所
- 【出席者数】 5人
- 【内 容】 代表理事及び副代表理事選出の件

❖第92回定例理事会

- 【実施日時】 2019年10月25日(金) 15:00～17:00
- 【実施場所】 カサ・ソラ(高山市宗猷寺町152)
- 【出席者数】 6人
- 【内 容】 情報交流会について

❖第93回定例理事会

- 【実施日時】 2019年11月25日(月) 14:30～17:00
- 【実施場所】 地域の未来・志援センター 事務所
- 【出席者数】 6人
- 【内 容】 セブソーイレブン記念財団 中間支援合同会議について

❖第94回定例理事会

- 【実施日時】 2020年1月30日(木) 14:30～17:00
- 【実施場所】 地域の未来・志援センター 事務所
- 【出席者数】 5人
- 【内 容】 情報交流会 当日運営について

❖第95回定例理事会

- 【実施日時】 2020年4月17日(金) 14:30～17:00
【実施場所】 ZOOM（オンライン会議）
【出席者数】 5人
【内 容】 きたネット・エコネット近畿との連携について 他

3. 2019年度運営会議

❖第29回運営会議

- 【実施日時】 2020年2月24日（木） 14:30～17:00
【実施場所】 地域の未来・志援センター 事務所
【内 容】 セブソーイレブン記念財団との今後の関係について
きたネット・エコネット近畿との連携について
今後の事業展開について 他

特定非営利活動法人 地域の未来・志援センター
2019年度 事業報告
以上

7. 監査報告

監査報告書

特定非営利活動法人地域の未来・志援センター

代表理事 萩原 恵子 様

2020 年 7 月 13 日

特定非営利活動法人地域の未来・志援センター

監事 鳥居 豊 

私は、特定非営利活動促進法第 18 条の規定に基づき、2019 年度（2019 年 6 月 1 日から 2020 年 5 月 31 日まで）の特定非営利活動法人地域の未来・志援センターの業務及び財産の状況について監査を実施いたしました。

監査の方法は、重要な会議の議事録その他の重要資料を閲覧するほか理事から事業の報告を聴取し、また財産の状況については証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行いました。

監査の結果、法人の業務の執行に関しては法令及び定款に違反する重大な事実はなく、2019 年度の特定非営利活動法人地域の未来・志援センターの財産の状況は適正なものと認められます。

以上

